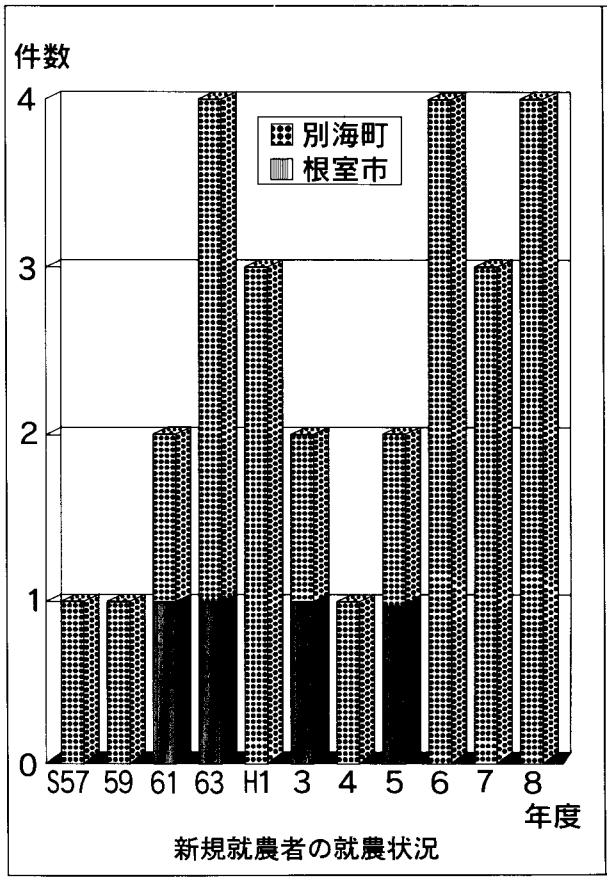
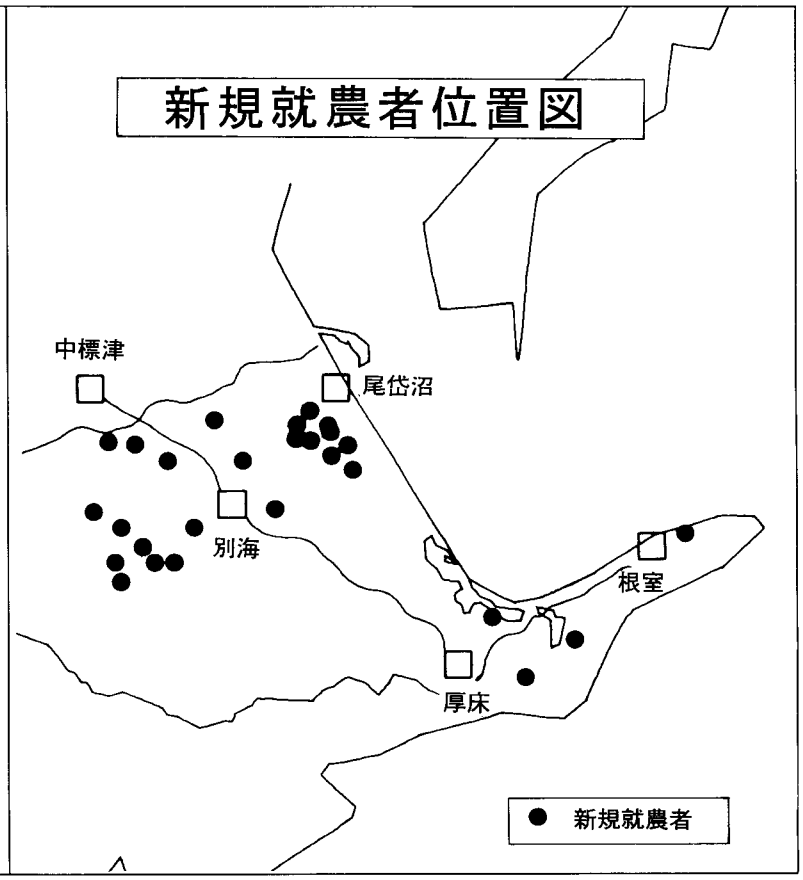
V 担　い　手





昭和57年から現在まで、農場リース制度で新規就農された方の、入植年とその就農位置を図に表しました。普及センターでは新たに酪農を始めようとする若者を支援しています。

1．担い手の確保・育成

新規学卒者やUターン青年など農家子弟の新規就農の減少や、農業従事者の高齢化が急速に進行していることなどから、将来の農家戸数の一層の減少が懸念されており、若い農業者等の担い手の確保・育成が必要となっています。

北海道では農業の担い手確保・育成のため、次の項目を重点にしています。

(1) 新規就農者の確保

① 学校教育との連携強化：学校教育期から、農業・農村の役割や知識を深めるように、家庭・学校・農業者が一体となった活動を助長。

② 新規就農希望者の就農相談と定着　：就農予定者の把握と就農促進にむけた地域の取り組み活動の促進。

(2) 研修教育の充実強化

① 農業大学校　：ア　畜産、畑作及び稲作経営を中心とした実践的な教育。
　　：イ　農業経営者、農村女性を対象とした短期研修。
　　：ウ　Uターン・新規参入者を対象とした基礎的な農業の研修。

② 農村ゼミナールの開催：平成８年度　４コース（農産加工、乳牛管理、女性支援、パソコン簿記）

③ 各種研修教育との連携：地域の担い手の育成研修活動に対しての支援。

(3) 農業者活動の助長

① 農村青少年集団の組織強化
　別海町４Ｈクラブ連絡協議会　31名
　（中春別青年会17名、上春別４Ｈクラブ14名）
　根室市４Ｈクラブ連絡協議会　８名

② 農村地域リーダーの育成

③ 指導農業士・農業士の活動助長
　指導農業士　別海町　５名、根室市　２名
　農　業　士　別海町　６名、根室市　２名

④ プロジェクト活動に対する指導の強化

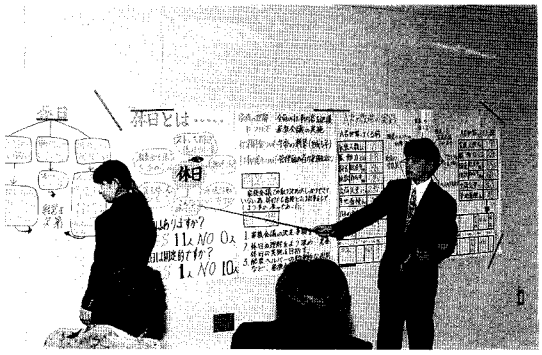


写真１　北海道青年農業者会議（プロジェクト発表より）

過去３年間における管内４Ｈクラブ員の実績

国・北海道の大会	年　度	プロジェクト発表	アグリメッセージ
北海道青年農業者会議	平成５年度	伊藤　大輝（根室市）	佐々木信雄（上春別）
	平成６年度	工藤　良広（根室市）	田口　豊次（中春別）
	平成７年度		工藤　良広（根室市）
全国青年農業者会議	平成６年度	工藤　良広（根室市）	

⑤ 集団活動促進行事の開催

(4) 担い手対策の推進体制の整備

就農の動機づけから円滑な就農、就農後の資質向上のための諸対策の推進。

2．新規就農者の支援

(1)　(社) 北海道農業担い手育成センター

新しい農業の担い手確保・育成の実践的な推進機関として、平成７年９月に設立発足しました。

①　構成する組織：センターの会員は、正会員として北海道、北農中央会（237農協を含む)、北海道信連、ホクレン、共済連、厚生連、道土地連、農業会議、農業開発公社、206市町村の215団体、賛助会員32団体

②　主な事業内容：ア　就農促進の啓発広報活動：農業ＰＲ、就農マニュアルの出版、体験ツアー

イ　就農相談活動

ウ　就農支援資金の貸付：

資金名	貸付限度額	貸付期間	償還期間
就農研修資金	5または15万円／月	４年以内	20年(９年)
就農準備資金	150万円		20年(９年)

エ　研修教育体制の整備：研修者の家賃助成　２分の１以内　15千円／月まで

オ　交流推進活動　　：交流会の開催、パソコンリース（１年以内）

カ　就農促進支援活動　：各市町村の地域担い手センターと連携

(2)　(有) 別海町酪農研修センター

①　牧場の役割　ア　就農希望者の実践牧場　　イ　農業後継者の研修牧場

ウ　新技術等の実証展示牧場　　エ　観光的機能を持ち合わせた施設

②　牧場の概要

ア　牧場施設　牧場用地面積　78.4ha　うち牧草地　76.1ha

第１実践牧場　搾乳牛60頭程度の繋ぎタイプ（平成９年）

第２実践牧場　搾乳牛100頭程度のフリーストールタイプ（平成11年）

研修館、宿泊施設、その他

イ　研修内容　牧場を利用した酪農技術の実践及び研修館での専門家による研修

（飼養管理技術、経営管理　等）

ウ　研修期間　３年間　１年目：酪農の基礎的な技術・知識の習得

２年目：専門的知識の習得による応用力の養成

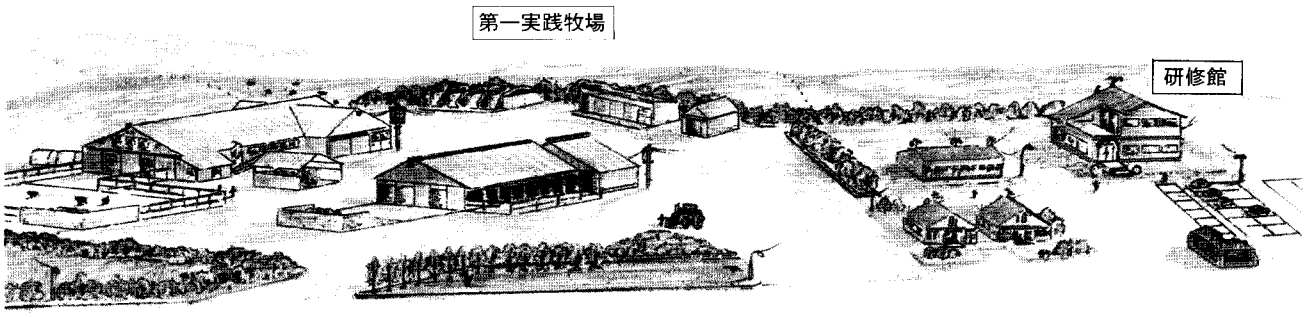
３年目：農家研修等による自立可能な能力の養成

エ　研修生募集人員　３～５名（３年間で18名）

オ　研修生の待遇　研修生は㈲別海町酪農研修牧場の臨時職員として処遇し、一定額の給与を支給するとともに、労働保健、社会保険に加入します。

カ　応募資格　（ア）酪農家を志す健康なものであって、おおむね40歳以下の妻帯者または30歳以下の独身者。

（イ）中学卒業以上の学歴を有し、禁治産者、準禁治産者でないこと。



3．ゆとりある酪農と生活を目指して

～酪農実習生意識調査から～

根室管内４Ｈクラブ連絡協議会（吉田栄一会長）主催のサマーカーニバルが、8月12日に開催されました。参加した管内の酪農実習生の、根室の印象や酪農作業などについての意見は次のとおりでした。

◎実習生の概要

・調査対象　36名　うち回答者28名（男子11名　女子17名）　【回収率　約78％】

・年齢範囲　18～30歳まで（平均年齢22歳）

(1)　調査概要

①　実習の目的について

実習に来た理由は「北海道に来たかったから」が最も多く15人。

次いで「牛（動物）が好きだから」、「酪農にあこがれて」の順です。

一方、「都会の生活から離れたかった」が５人と、酪農そのものよりも都会にはない自然や農村に対するあこがれもありました。（図１）

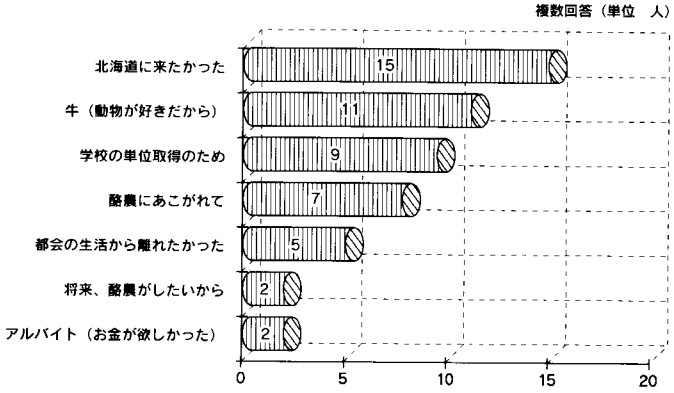


図１　実習理由（目的）について

(2)　根室の印象

①　自然について

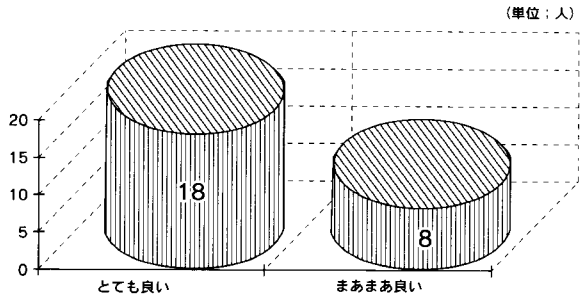


図２　根室の「自然」について

根室の自然に好感を持っていることがわかります。（図２）

・広々としている

・景色がよい

・動物が多い

・北方領土がすぐ見える

②気候について

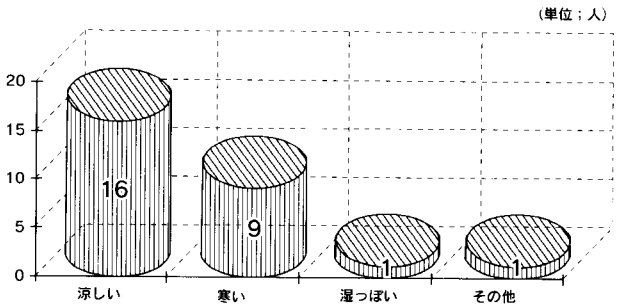


図３　根室の「気候」について

「涼しい」が16人と多く「寒い」・「湿っぽい」を上回りました。（図３）

③　人について

「親切」が約6割で、「不親切」という回答はありませんでした。

また、「近くの農家との交流が多く、地域の団結力が強い」という意見もありました。（図4）

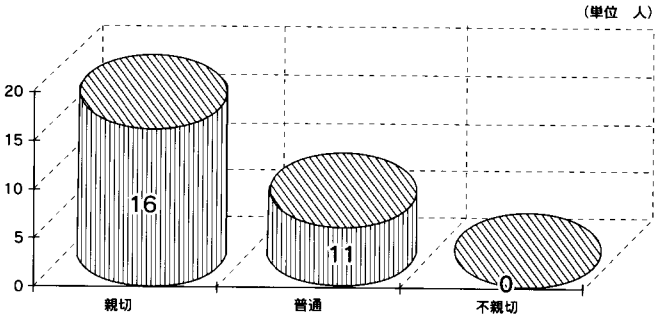


図4　根室の「人」について

④　生活について

生活の快適さや利便性について聞いたところ「過ごしやすい」、「普通」が大半でした。（図5）

・車が少なくゴミゴミしていない
・静かでのんびりしている…など

「過ごしにくい」理由は、

・交通の便が悪い
・車がないと生活できない
・情報や娯楽が少ない
・同世代の若者が少なく、気軽に会話できない
・生活にあまり干渉されたくない

……など

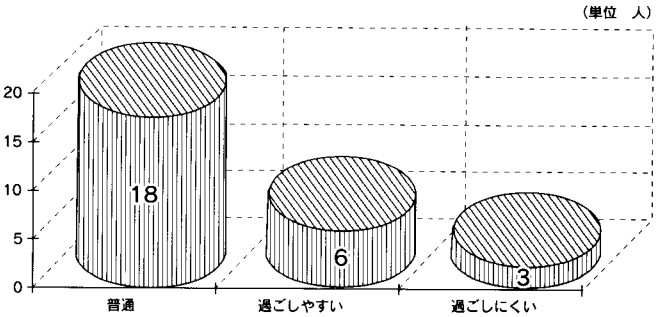


図5　根室での「生活」について

⑤　根室にまた来たいか

「ぜひ来たい」、「機会があれば来たい」が8割をこえ、実習生は根室に好感を持ち、再度訪れたいと思っています。

しかし、「住むには向いていない」、「遊びに来るには良いところ」という少数意見もありました。（図6）

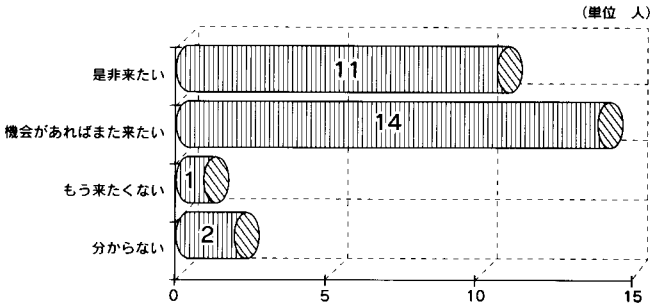


図6　「根室」にまた来たいか

(3) 酪農作業について

実習生にとって楽しい、やりがいのある作業とは、牛乳生産に直接関係する作業や牛に接する作業でした。(図7、図8)

また、つらい作業としては、除糞やクモの巣取りなどをあげており、汚れたり、単調な作業は敬遠するようです。(図9)

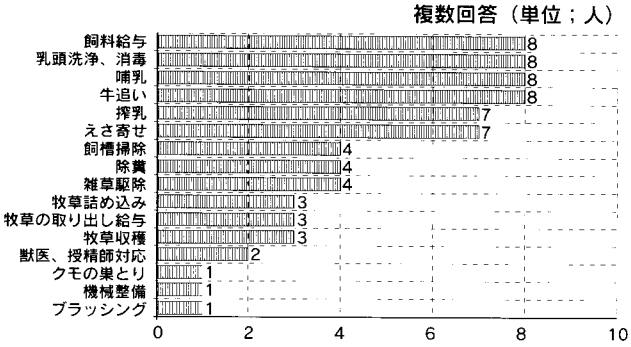


図7　楽しかった作業

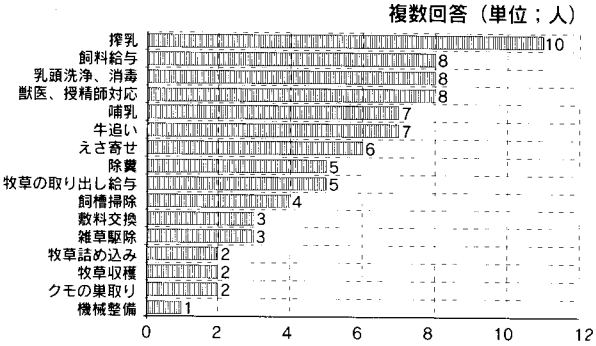


図8　やりがいのあった作業

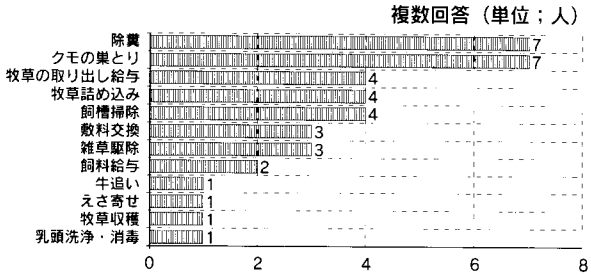


図9　つらかった作業

(4) 酪農作業の感想

① 良かった点

- 牛に接することができて嬉しかった
- 動物飼育の大変さがわかった
- 日頃味わえない多くの体験をした
- いろいろな作業が機械化されている

② 改善点

- 休日や休憩時間がとりにくい
- 1日の労働時間が長い
- 牛体の汚れ・繁殖管理不足
- 牧草地の管理不足

など厳しい意見もありました。

(5) 調査結果のまとめ

毎年道外から来る実習生は非農家出身者が多く、そのほとんどが牛乳・乳肉製品を口にしている消費者です。

その若者が、農村での生活・酪農体験を通じて作業・生活・時間・精神的と様々な場面で感じた素直な意見があらわされています。

このような中で実習生は、自然環境や地域での人々との関わりには、とっても魅力を感じながらも不規則な労働条件になかなか馴染めず苦悩している現実がみえます。

酪農が「ゆとり」ある魅力的な職業として発展するために、この調査が参考になることを期待します。